

志手一哉、芝浦工業大学、教授



【テーマ名】

ライフサイクルBIMに向けて - プロジェクト情報からアセット情報へ -

【概要】

2018年にBIMで構築された資産のライフサイクル全体にわたって情報管理を行うための国際規格であるISO19650シリーズが発行され、我が国でも2019年6月に国土交通省が建築BIM推進会議を立ち上げるなど、世界中でBIMの普及が急速に進んでいます。BIMは企画、設計、施工の業務を効率化するだけでなく、その過程で確定していく様々な情報を施設資産のマネジメントにつないでいく役割を併せ持っています。その中には空間や建物構成要素の性能、建物構成要素の構築方法、製品の仕様、メンテナンスの情報、出来形などが含まれています。また、2020年から公開が始まった国土交通省が創る3D都市モデルのデータも社会インフラとしてアセット情報を扱っていくプラットフォームになる可能性を秘めています。このようなアセット情報としてのBIMの現状についてディスカッションできればと考えています。

【自己紹介】

芝浦工業大学建築学部建築学科教授、建築情報学会常任理事、日本開発工学会理事、日本建築積算協会理事、BIMライブラリ技術研究組合理事